

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

實用新案登録第3185841号
(U3185841)

(45) 発行日 平成25年9月5日(2013.9.5)

(24) 登録日 平成25年8月14日 (2013.8.14)

(51) Int.Cl.

F 1

B 6 5 D 5/44 (2006.01)

B 6 5 D 5/44

M

B 6 5 D 5/42 (2006.01)

B 6 5 D 5/42

B

評価書の請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 実願2013-3591 (U2013-3591)
(22) 出願日 平成25年6月25日 (2013. 6. 25)

(73) 実用新案権者 391065817
富山スガキ株式会社
富山県富山市古鍛冶町 5 番 2 3 号

(74) 代理人 100095430
弁理士 廣澤 勲

(72) 考案者 赤井 智昭
富山県富山市塚原 2 3 番の 1 富山スガキ
株式会社内

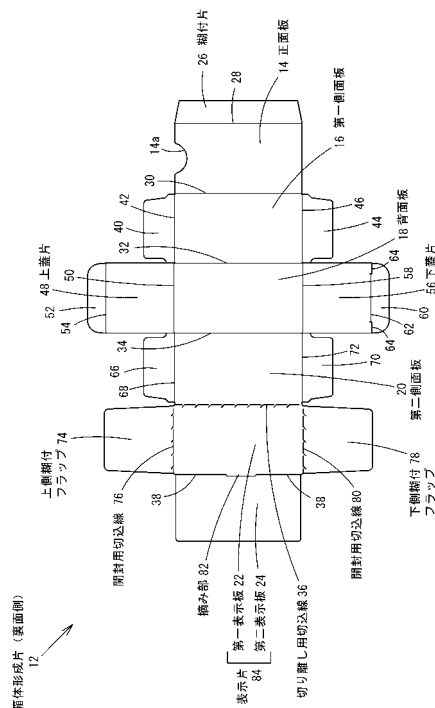
(54) 【考案の名称】 包装箱

(57) 【要約】

【課題】表示片の機能性を高めると共に、簡単な構造で不正な改ざんを防止できる包装箱を提供する。

【解決手段】箱体形成片１２から成り、連接された正面板１４、第一側面板１６、背面板１８、第二側面板２０、第一表示板２２、第二表示板２４が順に連接され、先の４つの板で筒状体を形成する。背面板１８の側端部に上蓋片４８と下蓋片５６が延設される。第一表示板２２の側端部に上側及び下側糊付フラップ７４、７８が延設され、各々が開封用切込線７６、８０で区切られる。第一及び第二表示板２２、２４を折り重ねて表示片８４を形成し、正面板１４に折り重ねる。上蓋片４８に上側糊付フラップ７４を重ねて糊付し、筒状体の一端を塞ぐ。下蓋片５６に下側糊付フラップ７８を重ねて糊付して筒状体の他端を塞ぐ。第二側面板２０と第一表示板２２は、切り離し用切込線３６で区切られていても良い。

【選択図】 図2



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

一枚のブランクシートから一体的に打ち抜かれた箱体形成片から成り、前記箱体形成片には、正面板、第一側面板、背面板、第二側面板が順に互いに平行な折罫線を介して接続され、その接続方向の一端部に表示片が折罫線を介して接続され、

前記背面板には、前記接続方向に対して直角方向の双方の端部に、上蓋片及び下蓋片がそれぞれ延設され、前記第一表示板には、前記接続方向に対して直角方向の双方の端部に、上側糊付フラップ及び下側糊付フラップがそれぞれ延設され、前記表示片の端部のうち、前記上側糊付フラップ側の端部及び前記下側糊付フラップ側の端部にそれぞれ開封用切込線が設けられ、

10

組み立て状態で、前記正面板、前記第一側面板、前記背面板、前記第二側面板の表面を外側にして折り曲げ、当該4つの板を側板とする筒状体を形成し、前記表示片の裏面側を前記正面板の表面に折り重ね、前記上蓋片、前記上側糊付フラップを内側に順次折り曲げて、前記上蓋片の表面に前記上側糊付フラップの裏面を糊付けして前記筒状体の一方の開口端を塞ぎ、前記下蓋片、前記下側糊付フラップを内側に順次折り曲げて、前記下蓋片の表面に前記下側糊付フラップの裏面を糊付けして前記筒状体の他方の開口端を塞ぎ、

使用時は、前記表示片を前記正面板から引き起こす操作を行って前記開封用切込線を破断することによって開封することができることを特徴とする包装箱。

【請求項 2】

前記上蓋片の先端部に、組み立て状態で前記正面板の内側に差し込まれる差込片が延設され、開封後、前記差込片により前記上蓋片を閉じた状態に保持できる請求項 1 記載の包装箱。

20

【請求項 3】

前記表示片には、前記正面板に折り重なった状態で、前記正面板の側方に突出する開封用の摘み部が設けられている請求項 1 又は 2 記載の包装箱。

【請求項 4】

前記箱体形成片には、前記正面板、前記再一側面板、前記背面板、前記第二側面板の接続方向の一端部に、第一表示板、第二表示板が順に互いに平行な折罫線を介して接続され、

組み立て状態で、前記第二表示板の裏面を前記第一表示板の裏面に折り重ねて糊付けされ、一体の前記表示片が形成され、前記第二表示片と前記第二側面板の間に切り離し用切込線が設けられ、前記切り離し用切込線を破断することによって前記表示片を前記筒状体から切り離すことができる請求項 1、2 又は 3 記載の包装箱。

30

【請求項 5】

商品説明等の表示は、前記箱体形成片に展開された状態で、表面側に片面印刷されている請求項 4 記載の包装箱。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

40

本考案は、工場等で商品が収容され、そのまま小売店等の店頭陳列されて使用される包装箱に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、特許文献 1 に示すように、矩形の箱体である本体（空容器体）に、表示片（広告等表示用フラップ）が折り曲げ自在に連成され、その折り曲げ部の一部に切れ目が形成された販売促進用陳列広告媒体があった。表示片は、ミシン目状に設けられた切れ目の端部同士が接触した際の摩擦係止力により、伸展させた状態に保持固定される。

【先行技術文献】

【特許文献】

50

【0003】

【特許文献1】特開2010-8595号公報

【考案の概要】

【考案が解決しようとする課題】

【0004】

特許文献1の販売促進用陳列広告媒体は、不正な改ざんを防止するための構造を備えていない。したがって、別途、開封部に開封防止シールを貼り付けたり、開封されるとその痕跡が残る判別シールを貼り付けたりする等の面倒な対策を行う必要があった。また、表示片を本体から切り離して単体で使用されることが想定されておらず、表示片を単体で使用するための使い易さ等について、特に考慮されていない。

10

【0005】

本考案は、上記背景技術に鑑みて成されたものであり、表示片の機能性を高めると共に、簡単な構造で不正な改ざんを防止できる包装箱を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本考案は、一枚のブランクシートから一体的に打ち抜かれた箱体形成片から成り、前記箱体形成片には、正面板、第一側面板、背面板、第二側面板が順に互いに平行な折罫線を介して接続され、その接続方向の一端部に表示片が折罫線を介して接続され、前記背面板には、前記接続方向に対して直角方向の双方の端部に、上蓋片及び下蓋片がそれぞれ延設され、前記第一表示板には、前記接続方向に対して直角方向の双方の端部に、上側糊付フラップ及び下側糊付フラップがそれぞれ延設され、前記表示片の端部のうち、前記上側糊付フラップ側の端部及び前記下側糊付フラップ側の端部にそれぞれ開封用切込線が設けられ、組み立て状態で、前記正面板、前記第一側面板、前記背面板、前記第二側面板の表面を外側にして折り曲げ、当該4つの板を側板とする筒状体を形成し、前記表示片の裏面側を前記正面板の表面に折り重ね、前記上蓋片、前記上側糊付フラップを内側に順次折り曲げて、前記上蓋片の表面に前記上側糊付フラップの裏面を糊付けして前記筒状体の一方の開口端を塞ぎ、前記下蓋片、前記下側糊付フラップを内側に順次折り曲げて、前記下蓋片の表面に前記下側糊付フラップの裏面を糊付けして前記筒状体の他方の開口端を塞ぎ、使用時は、前記表示片を前記正面板から引き起こす操作を行って前記開封用切込線を破断することによって開封することができる包装箱である。

20

30

【0007】

前記上蓋片の先端部に、組み立て状態で前記正面板の内側に差し込まれる差込片が延設され、開封後、前記差込片により前記上蓋片を閉じた状態に保持できる。また、前記表示片には、前記正面板に折り重なった状態で、前記正面板の側方に突出する開封用の摘み部が設けられていることが好ましい。

【0008】

前記箱体形成片には、前記正面板、前記再一側面板、前記背面板、前記第二側面板の接続方向の一端部に、第一表示板、第二表示板が順に互いに平行な折罫線を介して接続され、組み立て状態で、前記第二表示板の裏面を前記第一表示板の裏面に折り重ねて糊付けされ、一体の前記表示片が形成される構造でもよい。前記第二表示片と前記第二側面板の間に切り離し用切込線が設けられ、前記切り離し用切込線を破断することによって前記表示片を前記筒状体から切り離すことができるようにしてもよい。

40

【0009】

前記摘み部は、前記第一表示板と前記第二表示板との境界部に、組み立て状態で前記表示片の端部から突出するように設けられていることが好ましい。商品説明等の表示は、前記箱体形成片に展開された状態で、表面側に片面印刷されている。

【考案の効果】

【0010】

本考案の包装箱は、商品説明等を表示するための表示片を備えているので多くの情報を表示することができ、開封前の表示片を固定する独特の構造により、改ざん防止の効

50

果も得られる。また、組み立て易く、開封の操作も容易であり、開封後に表示片を切り離して使用することもでき、非常に便利である。

【図面の簡単な説明】

【0011】

【図1】本考案の一実施形態の包装箱を組み立てた状態の外観を示す斜視図である。

【図2】この実施形態の包装箱の箱体形成片の裏面側を示す展開図である。

【図3】図2の箱体形成片を組み立てる工程を示す斜視図である。

【図4】この実施形態の包装箱を開封したときの外観を示す斜視図（a）、表示片を切り離したときの外観を示す斜視図（b）である。

【図5】切り離された表示片の表裏の表示について説明する図（a）、（b）である。

10

【考案を実施するための形態】

【0012】

以下、この考案の一実施形態について、図面に基づいて説明する。図1はこの考案の一実施形態の包装箱10を示したもので、包装箱10は、図2に示す箱体形成片12を組み立てることによって形成されている。

【0013】

箱体形成片12は、厚紙等の一枚のブランクシートを打ち抜いて形成され、正面板14、第一側面板16、背面板18、第二側面板20、第一表示板22が順に接続されている。この5つの板は、ほぼ同じ大きさの長方形である。さらに、第一表示板22の側方に、第一表示板22よりもやや外形が小さい第二表示板24が接続され、正面板14の側方には、組み立て状態で第二側面板20の内側に糊付けされる細長い糊付片26が接続されている。糊付片26、正面板14、第一側面板16、背面板18、第二側面板20、第一表示板22、第二表示板24は、それぞれ折罫線28、30、32、34、切り離し用切込線36、折罫線38で区切られている。箱体形成片12には、表面側に商品名やその他必要な情報が印刷されている。

20

【0014】

正面板14の接続方向に対して直角方向の一端部には、その中央部分を内側に切り欠いた半円状の切り欠き14aが設けられている。

【0015】

第一側面板16の一端部であって、正面板14の切り欠き14aが形成された側には、略台形状のサイドフラップ40が延設され、折罫線42で第一側面板16の端部と区切られている。サイドフラップ40の延設長は、正面板14の幅（接続方向の長さ）の約1/2である。第一側面板16の反対側の端部にも、ほぼ同形状のサイドフラップ44が延設され、折罫線46で第一側面板16と区切られている。

30

【0016】

背面板18の、サイドフラップ40側の一端部には、略正方形の上蓋片48が延設され、折罫線50で背面板18の端部と区切られている。上蓋片48の延設長は、第一側面板16の幅（接続方向の長さ）とほぼ等しい。さらに上蓋片48の先端部に差込片52が延設され、折罫線54で上蓋片48の端部と区切られている。差込片52は、組み立て状態で正面板14の内側に差し込まれる部分であり、切り欠き14aによる開口を塞ぐ程の大きさを有している。

40

【0017】

背面板18の、サイドフラップ44側の一端部には、上蓋片48とほぼ同形状の下蓋片56が延設され、折罫線58で背面板18の端部と区切られている。さらに下蓋片56の先端部に差込片60が延設され、折罫線62で下蓋片56の端部と区切られている。差込片52は、組み立て状態で正面板14の内側に差し込まれる部分である。また、折罫線62の両端部に、所定長さの切り込み64が設けられている。

【0018】

第二側面板20の、上蓋片48側の一端部には、サイドフラップ40とほぼ同形状のサイドフラップ66が延設され、折罫線68で第二側面板20の端部と区切られている。第

50

二側面板 20 の反対側の端部にも、サイドフラップ 66 とほぼ同形状のサイドフラップ 70 が延設され、折罫線 72 で第二側面板 20 と区切られている。

【0019】

第一表示板 22 の、サイドフラップ 66 側の一端部には、略台形状の上側糊付フラップ 74 が延設され、開封用切込線 76 で第一表示板 22 の端部と区切られている。上側糊付フラップ 74 の延設長は上蓋片 48 とほぼ同じであり、先端側がやや狭くなっている。第一表示板 22 の反対側の端部には、上側糊付フラップ 74 とほぼ同形状の下側糊付フラップ 78 が延設され、折開封用切込線 80 で第一表示板 22 と区切られている。

【0020】

第一表示板 22 と第二表示板 24 との境界部分は、折罫線 38 の中央部分が省略され、その内側両端を始点とする台形状の切り込みが第二表示板 24 に入る向きに形成され、その切り込みの内側部分が摘み部 82 になっている。

【0021】

次に、箱体形成片 12 の組み立て方法の一例を説明する。以下、箱体形成片 12 の表面側が凸になる折り方を正折り、裏面側が凹になる折り方を逆折りと称する。

【0022】

まず、第二表示板 24 の裏面に糊を塗布し、第二表示板 24 を折罫線 38 で正折りして第一表示板 22 の裏面に重ねて糊付けする。この糊付けにより、第一及び第二表示板 22, 24 が一体となった表示片 84 が形成され、摘み部 82 が表示片 84 の端部から外向きに突出する。

【0023】

この後、糊付片 26 の表面に糊を塗布し、折罫線 30 を正折りし、さらに折罫線 34 を正折りすることによって、糊付片 26 を第二側面板 20 の裏面に糊付けする。

【0024】

次に商品を包装する工場等において、折罫線 28, 30, 32, 34 を各々 90 度になるように正折りして、四角形の筒状体を形成する。そして、筒状体の底部となる一方の端部を閉鎖する。まず、サイドフラップ 44, 70 を各々折罫線 46, 72 で 90 度に正折りし、差込片 60 を折罫線 62 で正折りし、下蓋片 56 を折罫線 58 で 90 度に正折して差込片 60 を正面板 14 の内側に差し込む。差込片 60 は、一对の切り込み 64 がサイドフラップ 44, 70 の端部と係合して強く抜け止めされ、それによって下蓋片 56 がしっかり保持され、筒状体の底部となる。次に、筒状体の開放端（上蓋片 48 側の端部）から商品等を入れる。

【0025】

商品等を収容すると、開放端を閉鎖するため、まず、図 3 に示すように、サイドフラップ 40, 66 を各々折罫線 42, 68 で 90 度に正折りし、差込片 52 を折罫線 54 で正折りし、上蓋片 48 を折罫線 50 で 90 度に正折して差込片 52 を正面板 14 の内側に差し込む。差込片 60 は、正面板 14 やサイドフラップ 40, 66 との接触摩擦により係止され、それによって上蓋片 48 が保持され、筒状体の天井部となる。さらに、表示片 84 を筒状体切り離し用切込線 36 で 90 度に正折り、第二表示板 22 を正面板 14 の表面に重ねる。

【0026】

最後に、上側糊付フラップ 74 の裏面に糊を塗布し、開封用切込線 76 を 90 度に正折りして上側糊付フラップ 74 を上蓋片 48 の表面に糊付けする。同様に、下側糊付フラップ 78 の裏面に糊を塗布し、開封用切込線 80 を 90 度に正折りして下側糊付フラップ 78 を下蓋片 56 の表面に糊付けする。以上の動作によって包装箱 10 の組み立て作業が終了し、図 1 の状態になる。

【0027】

次に、商品等の使用者が包装箱 10 を開封する操作について説明する。開封するときは、正面板 14 の双方に突出する表示片 84 の摘み部 82 を指で摘み、図 4 (a) に示すように、表示片 84 を正面板 14 から引き上げるようにして開封用切込線 76, 80 を破

10

20

30

40

50

断させる。このとき、表示片 8 4 は、第一及び第二表示板 2 2, 2 4 の 2 枚分の強度があるので、引き上げるときに変形しにくい。また、上側及び下側糊付フラップ 7 4, 7 8 は、表示片 8 4 から切り離されるが、上蓋片 4 8 と下蓋片 5 6 にそれぞれ糊付されているので、分離してゴミになることはない。

【0028】

開封用切込線 7 6, 8 0 を破断した後は、切り欠き 1 4 a の内側に指を当てて差込片 5 2 を抜き、上蓋片 4 8 を引き上げ、サイドフラップ 4 0, 6 6 を引き上げて筒状体の端部を開放し、中の商品を取り出す。さらに、商品に戻して再封するときは、サイドフラップ 4 0, 6 6 を 90 度に正折して元に戻し、上蓋片 4 8 を 90 度に正折して差込片 5 2 を差し込んで、元に戻す。

10

【0029】

さらに開封後、使用者は、切り離し用切込線 3 6 を破断することによって、表示片 8 4 を筒状体から切り離して使用することができる。表示片 8 4 は、図 5 に示すように、2 枚の表示板 2 2, 2 4 が糊付けされて一体になっているので、折れ曲がったり破れたりしにくい。また、表裏の両面（第一表示板 2 2 の表面、第二表示板 2 4 の表面）に表示が現れ、情報量も多い。したがって、例えば、表示片 8 4 を見やすい位置に吊下がりたり、財布や洋服のポケットに入れたりするのに便利である。表示片 8 4 は、筒状体の第二側面板 2 0 に繋がったままの状態にしても構わない。

【0030】

以上説明したように、包装箱 1 0 によれば、商品説明等を表示するための表示片 8 4 を側面板から延長されて備えているので、多くの情報を表示することができる。また、開封前、上側及び下側糊付フラップ 7 4, 7 8 を上蓋片 4 8 及び下蓋片 5 6 に糊付する構造により、表示片 8 4 がコンパクトに保持され、不正な改ざんを防止する効果も得られる。また、組み立て易く、開封の操作も容易であり、開封後に表示片 8 4 を切り離して使用することもできるので、非常に便利である。しかも、表示片 8 4 の表裏の表示は、箱体形成片 1 2 の状態で表面側だけに印刷すればよいので、表示片 8 4 以外の各部の表示と合わせ、効率よく印刷することができる。

20

【0031】

なお、本考案の包装箱は上記実施形態に限定されるものではない。例えば、上記の包装箱 1 0 は、第一表示板 2 2 と第二表示板 2 4 を折り重ねて糊付しているが、糊付けを省略し、左右に開いて使用できるようにしてもよい。糊付けを省略したとしても、上記のように、開封する際に表示片 8 4 が変形しにくいという点は同じである。また、箱体形成片 1 2 の素材や板厚の関係で、第一表示板 2 2 単体でも変形しにくい場合、第二表示板 2 4 を省略し、第一表示板 2 2 だけの表示片としてもよい。

30

【0032】

包装箱 1 0 の場合、上蓋片 4 8 は、差込片 5 2、サイドフラップ 4 0, 4 6、及び切り欠き 1 4 a の構造により開閉自在になっているが、その他の公知な構造を用いて開閉自在にしてもよい。また、下蓋片 5 6 は、差込片 5 2、サイドフラップ 4 0, 4 6 及び切り込み 6 4 の構造により開きにくい構造になっているが、その他の公知な構造を用いて開きにくくしてもよい。反対に、上蓋片 4 8 のように、下蓋片 5 6 も開閉自在な構造にしてもよい。

40

【0033】

包装箱 1 0 は、開封を容易にするための摘み部 8 2 が設けてあるが、上記と同様の操作が可能であれば、摘み部 8 2 の形態は自由に変更でき、例えば、表示板 8 4 の折罫線 3 8 側の端部全体を摘み部とし、正面板 1 4 の側方に大きく突出させてもよい。また、必要に応じて摘み部を省略しても構わない。

【0034】

箱体の大きさ、素材、各部の形状等は適宜変更可能である。例えば、第一及び第二側面板 1 6, 2 0 の幅（連接方向長さ）を正面板 1 4 及び背面板 1 8 の幅よりも短くして、内側が長方形の包装箱にしてもよい。また、箱体の側面となる正面板、第一側面板、背面板

50

、第二側面板の用語は、本考案の包装箱の構成を特定するために定義したものであり、使用する際にどの面を正面にするかは自由である。例えば、背面板に商品名を大きく目立つように印刷表示し、店頭に陳列するとき背面板を正面に向けて並べるようにしてもよい。

【符号の説明】

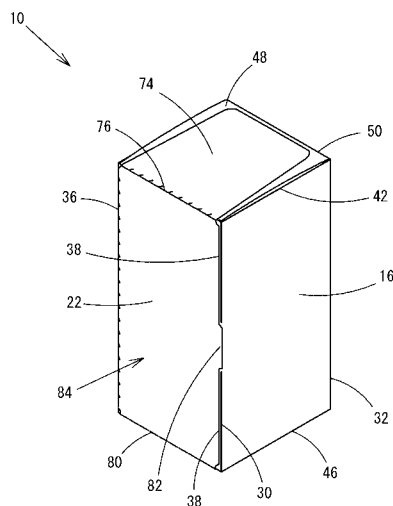
【0035】

- 10 包装箱
- 12 箱体形成片
- 14 正面板
- 16 第一側面板
- 18 背面板
- 20 第二側面板
- 22 第一表示板
- 24 第二表示板
- 36 切り離し用切込線
- 48 上蓋片
- 56 下蓋片
- 74 上側糊付フラップ
- 76 開封用切込線
- 78 下側糊付フラップ
- 80 開封用切込線
- 82 摘み部
- 84 表示片

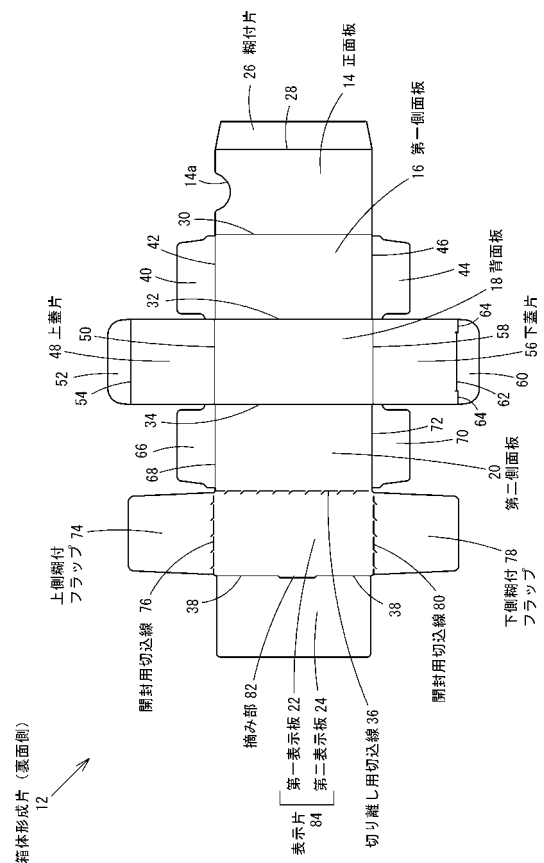
10

20

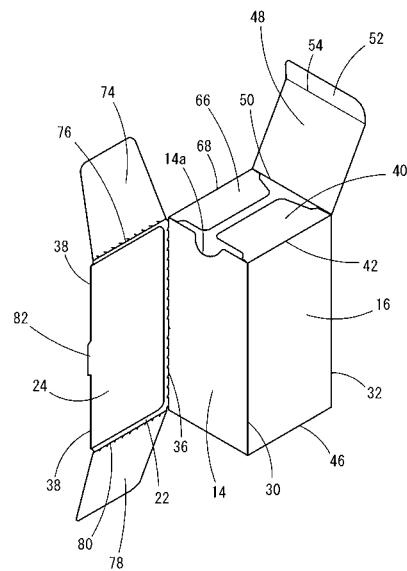
【図1】



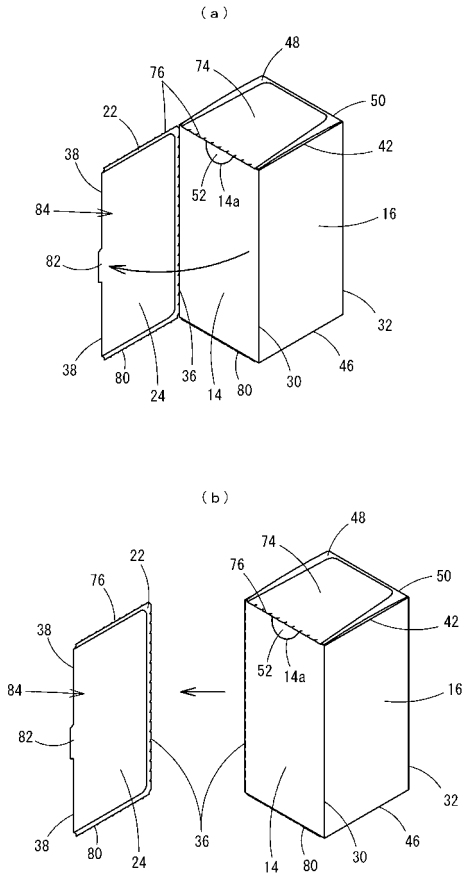
【図2】



【図 3】



【図 4】



【図 5】

